

全国学力・学習状況調査のCBT化に向けた令和3年度試行・検証について

令和3年度予算額：50百万円

背景

- GIGAスクール構想やPISA等の国際的な学力調査のCBT（コンピュータ等を使用した調査）による実施の流れを踏まえ、全国学力・学習状況調査のCBT化について、「全国的な学力調査のCBT化検討ワーキンググループ」において、専門的・技術的な観点から検討を実施中。
- 同ワーキンググループの中間まとめ「論点整理」※（令和2年8月28日）を踏まえ、全国学力・学習状況調査のCBT化に向けて、小規模から試行・検証に取り組む。

（※）「全国学力・学習状況調査のCBT化に向けて、まずは小規模から試行・検証に取り組み、課題の解決を図りつつ、確実に段階的に規模・内容を拡張・充実させていくことが早期の進展、実現につながる」

試行・検証内容

○実施規模

- ・小学校第6学年、中学校第3学年の児童生徒 約1万人
（ネットワーク環境等を考慮し、小学校50校程度、中学校50校程度で実施）

○主な検証事項

- ・初期段階の実証研究で確認すべきと考えられる事項を中心として試行・検証を実施

（1）ネットワーク・システムの検証

①事前のネットワーク環境

- ・試行実施前に、実証校の端末、ネットワーク等について測定し、ネットワーク環境を事前検証

②ネットワークの負荷

- ・各学校におけるネットワーク接続形式やネットワーク環境が異なることを踏まえ、2つのパターン※1で、通信負荷をかけ、ネットワークや機器に関する詳細な測定を実施
（※1）学校から直接インターネットへ接続する形式
センター等に集約して接続する形式

③CBTシステム※2のサーバの負荷

- ・調査実施時のCBTシステムのサーバの負荷状況の測定
（※2）学びの保障オンライン学習システム（MEXCBT）を活用

（2）実施体制の検証

- ・学校での実施体制や必要となるサポート体制
実証校におけるCBT実施手順、実施時の技術的トラブル等を検証
（必要に応じて実施支援員を派遣）

（3）問題の検証

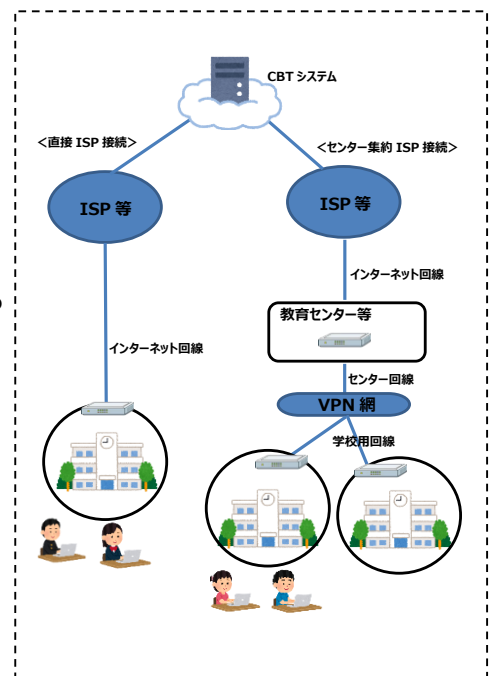
①問題表示形式等による差異

様々な問題表示形式等を使用し、CBTにおける問題表示形式や特性を活かした問題への解答等の違いを児童生徒へのアンケート等も実施しつつ、検証

②児童生徒の文字入力

児童生徒のキーボード操作等による文字入力能力と解答状況等と組み合わせて分析

＜ネットワーク・システム図＞



スケジュール（予定）

- ・**令和3年10月～11月** 実証校が実施可能な日時で試行・検証を実施
- ・**令和4年** 試行・検証の結果を踏まえ、ネットワークやシステム等、技術的な要件等について検討明らかになった課題等を踏まえつつ、着実な実施に向けて、さらに検証等を実施